

■第1回 検討委員会（道路部会）

日時：平成16年7月23日（金）午後1：30～

場所：大分県庁 84会議室

【主な意見】

- ・完成している路線でも課題をもっている。例えば、2車線で完成しているが、今の交通量では、4車線並の交通量がある路線（皆春地区）など、ネットの問題を抱えている路線がある。整備済みだけれど、未整備」というような、問題もある。
- ・個別の路線のみを見るのではなく、全体のネットワークを見直す必要もあるのではないか。大分県は九州でも整備率が低い方となっているが、コンパクトな都市整備の具体的なイメージがないと整理できなくなってしまっているのでは？
- ・評価項目は、需要側の視点も必要なのでは？（人口減少により交通量が減っている都市での道路整備は必要性が下がっているのでは？）また、車社会からの転換という視点が必要。代替路線があるから、この路線が不要になったというのは、理解しやすい。でも、交通量だけのネットワークではなく、緊急車両がスムーズに通行できるなどの要素も組み込んでほしい。
- ・未整備路線をそのまま残していくと、建築制限という規制は残っていく。例えば、今後50年整備しない路線ですと宣言し、建築制限の規制をゆるめる考え方も出来るのでは？
- ・今回整備見直し方針を検討しようとしているが、この次どの時点で見直しという話になるのか？それによっては、見直しする路線も変わってくるのではないか？
- ・ネットワーク、防災、アクセス、生活の質の視点で、具体の路線の必要性は、住民のアンケートによる方法も考えられる。
- ・大分県のパーソントリップはかなり以前に調査されたものですので、新たに調査し直すことも大事だ。

■第1回 検討委員会（公園部会）

日時：平成16年8月10日（火）午後1：30～

場所：大分県庁 702会議室

【主な意見】

- ・この検討会は公園の整備のことを考えていくのか、制限を長期に渡ってかけているので見直すことを検討していくのか。
（事務局）今後の整備のあり方と検証や見直しのあり方の両方を検討対象にしています。
- ・公園として以前はブランコ、滑り台、砂場が必要などという時期があったが、こうした遊具がある公園ではなく、単なる緑地、原っぱでよいのではないか。
- ・大分総合運動公園では、周辺の住宅は公園として整備するのではなく、地域の景観を守るという観点で公園を止めて代りに地区計画で高さを抑えてはどうか。
- ・住民の意見は大切だが、防災上必要な空間を確保するような場合、やはり行政側のリードが重要になってくる。機能的なもの、住民が身近に利用する小規模な公園については、住民の意見を聴く、より大規模なものは行政や専門家の検討に委ねるという分け方が考えられる。
- ・別府では周辺の山々が緑として残されている。地域の緑の実情を反映できるような仕組みがほしい。
- ・子供たちは街区公園で遊ぶのではなく、田んぼや川で遊んでいる。こうした空間が大切だと思う。公園と学校の校庭が別々に議論されるのもおかしい。トータルで環境に触れる機会を作っていくべきではないか。
- ・公園の議論では、やはりモデルケースが必要だと思う。そのモデルケースについて、住民とのワークショップを開催して意見交換をやっていくというようなやり方が良いのではないか。
- ・ドイツにはマスタープランに当たるFプランと地区計画に当たるBプランがあるが、Bプランを決めるのに、地元住民がまとまるまで急がないという。公園計画を一部廃止して地区計画で高さを担保しようとした場合、地元住民の意見がまとまるまで公園計画の変更はしないというやり方もあるのではないか。
- ・未整備の大規模な公園は山に計画されているようだが、山の上には散策路を整備するだけで、あと山の緑を守ればいいところもある。計画決定した時点と今では持つべき機能が変わっている可能性がある。今一度、その持つべき本来の機能を検証してみてもどうか。運動公園や特殊公園などその機能ごとに整理して検証していくことが必要だ。
- ・自分の身近に緑があるような環境にしたいと思う。空き地を借地して、公園として活用できるような仕組みが出来ないか。
- ・評価指標を数値化して評価していくのではなく、歴史的文化的資源や貴重種などを評価するべきではないか。